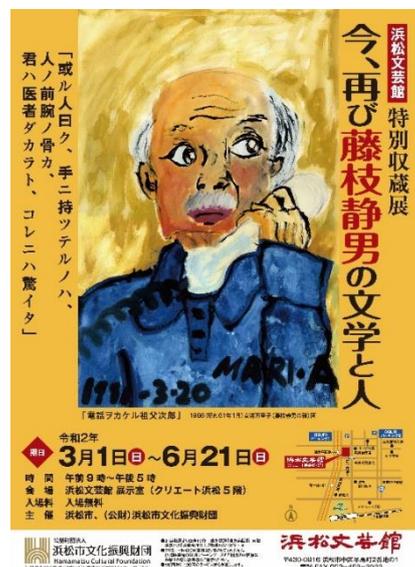


藤枝静男展は6月21日(日)まで

浜松文芸館では今までも藤枝静男氏の展示は何回も行ってきました。現在開催中の「今、再び藤枝静男の文学と人」展は、ご息女の安達章子氏から昨年寄贈された藤枝静男の遺書や日記、写真などを中心に藤枝静男の文学と人についての紹介を行っています。展示品数も188点あり、若き日の様子をDVDに編集したものや、浜松文芸館朗読講座でおなじみの堤腰和余先生が藤枝静男の作品を朗読したCDを流していて、見応えがあり、かつ、聞き応えのある展示となっています。また、志賀直哉氏、遠藤周作氏、石原慎太郎氏をはじめ、浜松国際ピアノコンクールの審査委員長を務めた中村絨子氏からの自筆封書も展示し、藤枝静男氏の幅広い交友関係をうかがうことができます。

実は藤枝静男というのはペンネームで、本名は勝見次郎といいます。友人の本田秋五が生まれ故郷の藤枝市にちなんで苗字の部分「藤枝」、名前の「静男」は学生時代に若くして亡くなった友人の北川静男からとって名付けたと言われています。浜松で眼科医を開業しながら、たくさんの小説を書いて、芥川賞の候補に何度もあがり、谷崎潤一郎賞や野間文芸賞など数々の文芸賞も受賞しています。記念のメダルや副賞の時計なども展示しています。藤枝静男はとにかくすごい作家です。こんなすごい作家が浜松にいたということを皆さんにぜひ知ってもらいたく今回の展示を企画しました。なお、今回のポスターになった絵「電話ヲカケル祖父次郎」は藤枝静男氏の孫の安達万里子氏が描いたものです。さらに、藤枝静男は「浜松市民文芸」創刊から第16集まで関わってくださいました。そういった資料も展示してあります。ぜひ、ご来館ください。



各種講座・講演は予定通り行います

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月、5月に開催予定の各種講座や講演を延期や中止とさせていただきます。また、4月22日から5月17日まで休館となり、皆様方には多大なご心配とご迷惑をおかけしました。しかし、5月18日から特別収蔵展「今、再び藤枝静男の文学と人」を再開し、延期していた川柳入門講座も5月24日に実施し、その後の各種講座や講演会も予定通り実施し、徐々にではありますが浜松文芸館の日常の活動を取り戻しつつあります。

講座等を開催するに当たっては「密閉」「密室」「密着」の三密の状態を回避し、換気に注意を払い、手指の消毒やマスクの着用など皆さんにご迷惑をかけていますが、御理解のほどよろしくお願ひします。特に、会場については従来のクリエート浜松講座室から51会議室や53会議室を中心に、広くゆったりとした部屋を使い、講座の皆様が安心して安全に来館していただけるよう今後も気をつけていきたいと思ひます。

こんな時こそ読書を！

浜松市民文芸 第65集
好評販売中！ 一冊¥500¥
*お求めは浜松文芸館事務室まで